

# 船小ハイブリッドパワー

— 学校と家庭を結び —

校長室だより No.18

“やさしく かしく たくましく”  
～ 本気と礼節の教育 ～  
令和4年1月14日 文責:安生昌弘

## ◆ なぜ勉強しなければいけないの？

「なぜ勉強しなければいけないの？」と子どもに訊かれた事はありませんか。昭和の時代なら「良い学校へ進学して給料の高い会社に就職するためだよ」で子どもは納得したかも知れませんが、ユーチューバーが子どもの就きたい職業ランキングに入る現在では難しいでしょう。また、保護者の皆様も「中学や高校の数学なんて日常生活に必要なのに…」などと感じた事があるのではないのでしょうか。実際、日常生活に困らないためであれば、5年生位までの学習内容で十分です。しかしながら、実は理数系教科の難しい内容は論理的に考える力を付けるために学習します。その力を使って文系教科の内容を正確に理解していくのです。今でも私は算数・数学科で学んだ論理的思考を使って、本を読んだり文章を書いたり話したりしています。



子どもに「考える力を付けるために勉強するんだよ」と言っても、よく理解できないでしょう。テレビでおなじみの齋藤 孝教授(明治大学『声に出して読みたい日本語』著者)によると、こんな風に言うのと良いとの事です。「勉強って地味なことをコツコツやらずにちゃいけないでしょ。大人になると仕事でもっと地味で答えが簡単に出ないことをコツコツやらずにちゃならないんだよ。その練習さ。」と。

## ◆ やる気スイッチを入れる

将来の夢や希望を持つことができると、子どもの“やる気スイッチ”がオンになります。しかし、誰もが明確な夢や希望を持てるとは限りません。そんな時は、ぼんやりとした職業のイメージでも良いので持ち、中学、高校やその上の学校でしっかり勉強すると職業選択の幅が広がることを励みにすると良いと思います。テレビで活躍中の林 修先生(塾講師も続けているそうなので…)も人生で最も頑張るべきは東大入試より就職試験であると言っています。就職試験では多くの会社で高校入試程度の問題が出され、作文力や面接での自己表現力も問われます。「勉強すると就きたい職業への可能性が高まるよ」と子どもに話すのも良いと思います。

それでも、中には「将来の夢や希望なんか無いよ」という子がいるかも知れません。(もしかすると無い振りをしているのかも知れませんが…)そんな時は“やる気スイッチ”を入れる魔法の言葉があります。当たり前と思える事をやっている時でも見逃さずに「頑張ってるねえ」という言葉かけをする事です。「頑張れ!」は、子どもによっては逆効果になるようです。



AI(人工知能)が発達して、将来多くの仕事が無くなるだろうと言われていますが、それを心配して何もしないのではなく、目の前にある学習に全力を尽くす、本気で勉強するよう導く事が大事だと思います。大人になって様々な原因でお金や大切なモノを失う事があっても勉強して得たものは誰にも奪われる事はありません。勉強は生きていくための武器のようなものではないでしょうか。

学校と家庭がタッグを組み、一つ(ハイブリッド)になって2倍以上の力(パワー)で効果的に子どもたちを育てたいと願い、校長室だよりを『船小ハイブリッドパワー』と名付けました。

